

会長・社長就任挨拶について

6月27日、当社会長に古関 信、社長に平井茂雄が就任いたしました。つきましては、昨日行われた社員に対する就任挨拶（要旨）を、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 古関 信 取締役会長 挨拶（要旨）

JX開発発足後の2年間、初代社長として、旧両社間の融和を図り、新会社として一体感のある組織運営に努めるとともに、「リスク管理を徹底しつつ、オペレーターシップを主体として持続的に成長する石油開発会社を目指す」という長期ビジョンを掲げ、「2020年の生産量20万BD」を長期の経営目標に置き、様々な施策を展開してきた。

損益面では、これまでのところ第1次中期経営計画で定めた目標を上回る実績を上げることができている。

事業面では、既存プロジェクトにおいて大きなトラブルもなく生産を継続するとともに、いくつかの探鉱区で原油・天然ガスを発見し、また、マレーシアやカタール、アブダビで有望な新規権益を取得することができた。さらに、パプアニューギニアLNGプロジェクトや豪州のフィヌケイン・サウス油田など、有力な開発案件も順調に進捗している。メキシコ湾浅海超深部のデイビージョーンズ構造から天然ガスの産出が確認されたことや、佐渡南西沖の試掘調査なども、今後に期待が持てるものである。

社内においては、組織改正をはじめ、機動的・効率的な業務遂行を目指した業務基盤の整備が進んでいる。また、石油開発会社として相応しい、高い専門性を有する人材を育成するための基本的な方針や具体的な育成手法を定め、実行に移しつつある。

生産量の減退や新規権益の取得など課題も残しているものの、将来の持続的な成長に向けた種まきは、社内外ともに予定どおり進んでいる。

当社には、有能な社員、他社に誇ることでできる探鉱・生産に関する技術やノウハウ、産油国政府や国営石油会社との太いパイプ、有望な探鉱資産など、有力な経営資源がある。平井新社長の指揮の下、全社の英知と情熱を結集すれば、現下の厳しい事業環境を克服し、名実ともにJXグループの中核事業会社になることができると確信している。

2. 平井茂雄 代表取締役社長 挨拶（要旨）

これまで経理や企画などの立場から間接的に石油開発事業に関与してきたが、今回初めて、しかも責任者として実際のビジネスに携わることになり、責任感と緊張感を全身で感じている。しかし、以前から石油開発事業の夢とロマン、ダイナミクスに魅了されていたので、期待とやりがいも感じている。

当社は、JXグループの成長分野を担う中核事業会社である。統合から2年間、古関前社長の下で、リスク管理を徹底しながら「オペレーターシップを主体として持続的に成長する石油開発会社を目指す」という長期ビジョンを掲げ、長期的な経営目標として、20万BDの生産体制を確立すべく、様々な施策を実行し、順調に推移してきた。これまでの皆さんの努力、尽力に大いに敬意を表したい。

一方、資産買収による権益の獲得は停滞気味であり、既存プロジェクトの生産量も計画を下回っており、国際的な資源獲得競争がますます熾烈さを増す中、当社の先行きは決して楽観視できるものではない。

資源開発は息の長い擲（たすき）レースであり、成功への近道があるわけでもない。これからも、長期ビジョンを社員全員で共有し、引き続き「積極的な探鉱活動の推進・新規権益の取得」を両輪として、既存資産の価値最大化・資産ポートフォリオの最適化と併せ、これらを着実に進めていくことが結果として近道であり、JXグループの成長分野を担う中核事業会社として期待されるところである。

そのため、具体的には以下の4つの施策を実行していく

- ① 資産 買収を含めた権益取得の積極的な推進
- ② 既存プロジェクトの事業管理の強化による保有権益の価値の最大化
- ③ 最適なポートフォリオ戦略の策定と実行
- ④ 最適な組織体制の構築と高い専門性を有する人材の確保

当社には、技術系・事業系の別や国籍を問わず真面目で潜在能力の高い人材が揃っている。また、長年にわたるオペレーターシップ事業を通じて培った探鉱・生産技術、事業管理や運営のノウハウ、東南アジア、中東などの産油国政府・国営石油会社との良好か

つ太いパイプもある。

こうした強みを十分かつ有機的に発揮し、4つの施策を着実に実行に移すことにより、立派な成果が得られるものと確信している。

今年度は、第1次中期経営計画の最終年であると同時に、次期中期経営計画策定の年でもある。

足下の計画達成に最大限注力すると同時に、次期中計については、長期目標の一里塚として社内で議論を尽くし、よりチャレンジングな目標を定め、目標達成に向けた計画とロードマップ、経営資源の最適配分など、実効性のあるアクションプログラムを練り上げていきたい。

私の信条は、「大胆かつ細心」と「同舟共済・携手共進」である。

一心同体でJX開発という船を漕ぎ、検討段階では細心の注意を払いながら、決めるときは機を逃さず大胆に判断していきたい。「リスクを取らないこともまたリスク」である。手を携えてともに前進しよう。

以 上